

# 平成17年度 名古屋大学大学院国際言語文化研究科 公開講座募集要項

主催：名古屋大学大学院国際言語文化研究科

## 日本像を探る —外から見た日本・内から見た日本—

わたしたち日本人は、日本が外国からどのように見られているかという問題に敏感な国民だと言われます。それではいったい、わたしたちの抱く「日本像」とは、どのようにして形成されたものなのでしょうか。そしてそれは、外国人の抱く日本像とどのように異なり、まだどのように関係しているのでしょうか。

わたしたちの国は、古くは中国・朝鮮から、近代には西欧から、多くの文化を取り入れてきました。異文化との接触によって、外からの日本像と内からの日本像が出会い、葛藤を起し、そして相互に影響をおよぼし合いながら今日に至っています。そのような文化史の様々の断面を、様々の視点から、考えてみたいと思います。

6月3日(金) [第1回]	<b>開講式</b> ■灯台下暗し、お宝再発掘—仏教と陰陽五行説から見た日本像 キーワード：仏教、陰陽五行説、エコロジー 仏教や、鍼灸治療の原理にもなっている陰陽五行説について説明できる日本人は、どれだけいるのでしょうか？灯台下暗し、私たちの足元に無視されて転がっているこれらお宝の再発掘をしてみれば、そこから日本人の世界観、人間像が浮かび上がってきます。	大学院国際言語文化研究科長 近藤 健二 教授 松本伊瑛子
6月10日(金) [第2回]	■平安文学における「モロコシ」と「ヤマト」 キーワード：モロコシ、ヤマト、ヤマトウタ、ヤマトダマシヒ 平安時代は、外来文化に対する傾倒から抜け出して日本的独自性を獲得した時代でした。平安初期の唐風謳歌の時代を経て、十世紀になってから、和歌は漢詩にとって代わります。勅撰集が編まれ、さらに仮名による物語、日記、随筆など多くの傑作が世に出ました。このような時代に、彼方の「唐土」はどのように認識されていたのでしょうか、また自国はどのように認識されていたのでしょうか。最初の和歌勅撰集『古今集』を編纂した紀貫之、散文学の最高傑作『源氏物語』を書いた紫式部などの言説を通じて考えてみたいと思います。	助教授 胡 潔
6月17日(金) [第3回]	■身体知の実践論—いま「職人の叡智」に学ぶべきこと— キーワード：「職人技」という技能、経験による身体知の体得、「暗黙知」の機能と構造 このところ「ものづくり大国」の大看板を顔色なからしめる不祥事が相次いで物議を醸している。機械やらマイクロシステムによる規格化と効率化を推し進める一方で、人命にも関わる忌々しき不良品を見破れないというのでは、「ものづくり」に携わる人たちの腕ばかりか眼力さえも落ちてきているのではないかと疑われる。ここでは、そうした背景を探るべく、さまざまな分野の「職人の叡智」を手がかりに、技能を体得するというこの意味とその効用について考えてみたい。	教授 柴田 庄一
6月24日(金) [第4回]	■ウィーンのジャポニスム キーワード：ウィーン、世紀末、ジャポニスム、万国博覧会、クリムト、アール・ヌーヴォー 1873年にウィーンでは万国博覧会が開かれ、日本は名古屋城の金の鯨などを出品し、ジャポニスム興隆のきっかけとなります。ジャポニスムは、ウィーン分離派の作品やウィーン工房の工芸品などに具体的に見られます。しかしそれは単に日本的なモチーフやデザインが取り入れられたことを意味するのではなく、従来のヨーロッパ的なものの見方の転換をも含んでいたのではないのでしょうか。クリムトを例にそれを探ってみてみたいと思います。	助教授 西川 智之
7月1日(金) [第5回]	■明治初期の「日本」像 キーワード：日本像、日本人論、近代国民国家、福沢諭吉、西周、加藤弘之、洋学 江戸時代の人びとは自分を「日本人」として意識してはいませんでした。近代の「日本」および「日本人」は、黒船来航以来の外圧を感じ取ることによって誕生したのです。この事実を踏まえて、明治初期の洋学者が「日本」および「日本人」をどのように考えていたのか、また彼らがすでに身につけていた漢学的素養と新しく学んだ洋学とはどのように関わり、それら二つの異文化の間で「日本」はどのように位置づけられていたのかを、福沢諭吉を中心とする洋学者の意識から探ってみてみたいと思います。	教授 前野みち子

7月8日(金)〔第6回〕	<b>■ドイツ近代演劇と日本古典演劇</b> <span style="float: right;">助教授 大庭 正春</span> キーワード：プレヒト、ダウテンダイ、能、歌舞伎 20世紀初頭に歌舞伎に興味を持ったダウテンダイや能の作品を生産的に受容したプレヒト等を紹介し、当時彼らがなぜ日本の古典演劇に、また日本の古典演劇の何に注目するようになったかを考えます。ダウテンダイは、特に歌舞伎の「花道」を使った臨場感溢れる演出方法を、プレヒトは彼がめざした新しい演劇と能や歌舞伎の演出方法との類似点を見出していますが、それらを—他の演出家も含め、ドイツ近代演劇と日本古典演劇という大きな枠組みの中で—話します。
7月15日(金)〔第7回〕	<b>■アメリカ人が内と外から見る日本像</b> <span style="float: right;">助教授 涌井 隆</span> キーワード：日本像、日米関係、リービ英雄 明治以前の日本人が自分を見る鏡として使ったのは主に中国であり、明治以降は欧米がそれにとって代わった。1980年代からは世界経済の自由化が進み、国境を越えた資本と人の動きが活発化して来た。その結果かつてのような日本人が内から見る日本像、あるいは外国人が外から見る日本像という単純な図式は成り立たなくなっている。そのような観点から日本在住のアメリカ人作家リービ英雄と日本で生まれ現在米国に住んでいるアメリカ人作家ノーマ・フィールドの作品を論じる。
7月22日(金)〔第8回〕	<b>■侯孝賢監督『珈琲時光』(小津安二郎生誕100年記念映画)を読む</b> <span style="float: right;">助教授 星野 幸代</span> キーワード：台湾映画、ノスタルジア、ポストコロニアル、小津安二郎、侯孝賢、センダック 2003年度小津安二郎生誕100年記念映画『珈琲時光』、これは一見したところ純然たる日本映画であるが、台湾人監督・侯孝賢によって撮られている。侯孝賢は小津映画の何を引き継いでいるのか。侯孝賢が捉えた現在の日本の家族とは。映画の影の主役である電車、またM・センダックの絵本、作曲家・江文也のエピソードの物語るものは？以上の切り口に加え、かつて小津にオマージュを送ったヴィム・ヴェンダースなどとの比較を交えて、『珈琲時光』を解釈してみたい。
閉 講 式 <span style="float: right;">大学院国際言語文化研究科長 近藤 健二</span>	

開催期間：6月3日(金)から7月22日(金)まで 毎週金曜日 全8回

開講時間：18:30～20:00

受講対象者：一般社会人、大学生、大学院生

募集人数：60名(先着順)

受講料：7,200円(「納入依頼書」により郵便局へ払込)

「受講申込書」の受付が受理された方には、受講番号を付した「受講票」と「納入依頼書」を折り返し返送します。

「納入依頼書」により最寄りの郵便局で受講料をお支払い頂き、その受領証を、「受講票」と共に第1回講座開講時に必ずご持参下さい。(受講料が納入されていない場合は、受講は認められません。)

開催会場：名古屋大学 東山地区 文系総合館7階カンファレンスホール(会場案内図参照)

申込締切：5月17日(火)まで〔必着〕

申込方法：郵送に限ります。

受講希望の方は、「受講申込書」に氏名・年齢・住所・電話番号・職業を、「受講票」に氏名を明記の上、80円切手(返送料)を添えて郵便でお申し込み下さい。なお、封筒の表面左下に「公開講座受講申込」と朱書願います。

要項の請求：募集要項の必要な方は、返信用封筒(80円切手貼付のこと)を同封の上、下記申込先まで請求して下さい。または下記ホームページから印刷できます。

申し込みと：名古屋大学大学院国際言語文化研究科事務室

問い合わせ先 住所：〒464-8601 名古屋市中種区不老町

TEL：052-789-5245・4833〔AM9:00～PM5:00〕 FAX：052-789-4873

ホームページ：<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/events/2005/kokaikoza-2005.html>

「受講申込書」及び「受講票」に記載される個人情報、当公開講座受講者への受講票の返送、及び今後の本研究科公開講座案内の送付等、公開講座を運営するに当たり必要な業務を行うために利用します。それ以外の目的のために利用、又は提供することはありません。また、これら個人情報の管理や利用は「名古屋大学個人情報保護規程」に基づき適正に取り扱います。

# 会場案内図

**文系総合館**  
会場：7階カンファレンスホール

**大学院国際言語文化研究科**

【地下鉄を利用】  
 地下鉄名城線「名古屋大学」駅下車  
 (1番出口へ)

【市営バスを利用】

市営バスの系統と行き先			
1	名駅17・名古屋駅行	4	八事11・島田住宅行
2	栄16・栄行	5	猪. 名・猪高車庫行
3	栄17・栄行	6	猪. 名・妙見町行
いずれも「名古屋大学」下車			

平成17年度 名古屋大学大学院国際言語文化研究科  
公開講座

## 受講申込書

日本像を探る ―外から見た日本・内から見た日本―

受付番号	フリガナ	年	才
※	氏名	年齢	才
受付年月日	(〒 - )	住所	
※	電子メールアドレス	職業	番

※の欄には記入しないでください。

平成17年度 名古屋大学大学院国際言語文化研究科  
公開講座

## 受講票

受講番号	氏名
※	

※の欄には記入しないでください。